

「思いやり」が生まれるとき

9月1日(木)に年長組に新しい友だちが入りました。その日の朝、全員が遊戯室に集まって紹介式を行いました。

しばらくして、その転入してきた子は、どうしているかなと思って、様子を見に行ってみました。するとちょうどその子が、トイレの前の水道の所で手を洗っていました。そして手を洗い終わってペーパータオルで手を拭いていると、隣でやはり手を洗っていた男の子が、その転入してきた子に言いました。

「それは、ひまわり組のごみ箱かな・・・。」

(今日来た子は、手を拭いた紙をどこへ捨てたらいいかわからないだろうな)と、その男の子は考えたのだと思います。そして、聞かれたわけではないけれど、使い終わったペーパータオルは自分たちの保育室のごみ箱に捨てるんだよと、自分から教えてあげたのです。

さらにその日の午後、担任の先生がこんなことを教えてくれました。

紹介式の後、クラスに戻ってみんなで自己紹介をし、転入してきた子にインタビューをしたそうです。その中に「好きな色はなんですか?」という質問があり、その子は「紫です。」と答えたそうです。その後自由に遊ぶ時間になり、女の子たちがお面作りを始めました。転入してきた子も一緒にそのお面に色紙のベルトを付けようとしているときのこと、隣にいた女の子が「紫色を使いたいときは、ここにあるからね。」とその転入してきた子に教えてあげたそうです。インタビューをちゃんと聞いて「この子の好きな色は紫だ。」ということ、その子は覚えていて、「紫なら、ここにあるからね。」そう声をかけてあげたのです。そういうふうに担任の先生は言っていました。

「思いやり」は、人と人とのかわりの中で生まれるものなのだと思います。



ボランティア、つながる力

先週一週間は、園庭の草をとる週間でした。コロナ禍の中ですので、みなさんで一斉に作業をするのではなく、登園したときや迎えに来たときに各自作業してもらうようお願いしました。保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、園庭もすっかりきれいになりました。ブランコの周りなどは草の丈も伸びていて、力のいる作業で大変だったことと思います。なかなか手の届かないジャングルジムの下もすっかりきれいにさせていただきました。ありがとうございました。



朝、保護者の方々が草取りをしていると、自然と子どもたちも外に出てきて、草取りを手伝うようになりました。

誰かが動き始めると、それに誰かが呼応して、その輪が少しずつ広がり、大きな力になることがあります。そうして一人では決してできないようなこともできてしまうことがあります。

ボランティアの素晴らしさは、そこにあると私は思います。